

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S5 #2 Top 10 Japanese Holidays: Obon/ The Lantern Festival

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 3 Romanization
- 4 English
- 5 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 6 Grammar

2

KANJI

1. お盆
2. 国内外を問わず人気の観光スポット・京都。皆さんは、毎年8月16日になると京都の山に「大」や「妙」という漢字をかがり火で表す「五山送り火（ござんのおくりび）」を知っていますか？
3. これは「お盆」の儀式の一つです。お盆とは仏教の「盂蘭盆会(うらぼんえ)」を略した呼び名で、一般的には8月13から16日の期間を指し、ご先祖様や亡き近親者の霊を迎えて供養する古来からの風習です。普段は仏教徒であることを意識していなくても、お盆になるとお墓参りをして、ご先祖様に感謝する日本人はとても多いのです。
4. お盆の風習は地方や宗派によって実に様々なようですが、ここでは私の知っている風習を紹介したいと思います。13日の夕方になると、玄關の周囲で「迎え火」を焚きます。この火は亡くなった方の霊を迎えるためのもの。そして室内には仏具や花、野菜や果物などを供えて霊界（俗に「あの世」と呼ばれます）から帰ってきた靈魂をもてなすのです。また、お盆の期間中に僧侶を招いて読経してもらったり、寺に出向いて法話を聞いたりもします。16日の夕方になると、再び玄關先で火を焚いて靈魂が無事にあの世へと戻れるように祈ります。これが「送り火」。冒頭に紹介した京都の山のかがり火は、死者の霊を霊界に送り届けるためのものです。
5. さて、日本では8月13日前後は平日でも多くの会社や店などが休日になり、「お盆休み」と呼ばれています。現代日本では、お盆は祖先の霊を祭る宗教行事だけではなく、国民的な休暇や故郷への帰省の時期でもあります。

KANA

1. おぼん

CONT'D OVER

2. こくないがいをとわずにんきのかんこうスポット・きょうと。みなさんは、まいとしはちがつじゅうろくにちになるときょうとのやまに「だい」や「みょう」というかんじをかがりびであらわす「ござんのおくりび」をしていますか？
3. これは「おぼん」のぎしきのひとつです。おぼんとはぶつきょうの「うらぼんえ」をりやくしたよびなで、いっぱんてきにははちがつじゅうさんからじゅうろくにちのきかんをさし、ごせんぞさまやなききんしんしゃのれいをむかえてくようするくらいからのふうしゅうです。ふだんはぶつきょうとであることをいしきしていなくても、おぼんになるとおはかまいりをして、ごせんぞさまにかんしゃするにほんじんはとてもおおいのです。
4. おぼんのふうしゅうはちほうやしゅうはによってじつにさまざまなようですが、ここではわたしのしているふうしゅうをしょうかいしたいとおもいます。じゅうさんにちのゆうがたになると、げんかんのしゅういで「むかえひ」をたきます。このひはなくなったかたのれいをむかえるためのもの。そしてしつないにはぶつぐやはな、やさいやくだものなどをそなえてれいかい（ぞくに「あのよ」とよばれます）からかえってきたれいこんをもてなすのです。また、おぼんのきかんちゅうにそうりよをまねいてどきょうしてもらったり、てらにでむいてほうわをきいたりもします。じゅうろくにちのゆうがたになると、ふたたびげんかんさきでひをたんいてれいこんがぶじにあのよへともどれるようにいのります。これが「おくりび」。ぼうとうにしょうかいしたきょうとのやまのかがりびは、ししゃのれいをれいかいにおくりとどけるためのものです。
5. さて、にほんでははちがつじゅうさんにちぜんごはへいじつでもおおくのかいしゃやみせなどがきゅうじつになり、「おぼんやすみ」とよばれています。げんだいにほんでは、おぼんはそせんのれいをまつるしゅうきょうぎょうじだけではなく、こくみんてきなきゅうかやふるさとへのきせいのじきでもあります。

ROMANIZATION

1. O-bon
2. Kokunaigai o towazu ninki no kankō supotto - Kyōto. Mina-san wa, maitoshi hachi-gatsu jū-roku-nichi ni naru to Kyōto no yama ni "dai" ya "myō" to iu kanji o kagaribi de arawasu "gozan no okuribi" o shitte imasu ka?
3. Kore wa "o-bon" no gishiki no hitotsu desu. O-bon to wa bukkyō no "urabon'e" o ryakushita yobina de, ippanteki ni wa hachi-gatsu jū-san kara jū-roku-nichi no kikan o sashi, go-senzo-sama ya naki kinshinsha no rei o mukaete kuyō suru korai kara no fūshū desu. Fudan wa bukkyōto de aru koto o ishiki shite inakute mo, o-bon ni naru to o-hakamairi o shite, go-senzo-sama ni kansha suru Nihonjin wa totemo ōi no desu.
4. O-bon no fūshū wa chihō ya shūha ni yotte jitsu ni samazama na yō desu ga, koko de wa watashi no shitte iru fūshū o shōkai shitai to omoimasu. Jū-san-nichi no yūgata ni naru to, genkan no shūi de "mukaebi" o takimasu. Kono hi wa naku natta kata no rei o mukaeru tame no mono. Soshite shitsunai ni wa butsugu ya hana, yasai ya kudamono nado o sonaete reikai (zokuni "anoyo" to yobaremasu) kara kaette kita reikon o motenasu no desu. Mata, o-bon no kikanchū ni sōryo o maneite dokyō shite morattari, tera ni demuite hōwa o kiitari mo shimasu. Jū-roku-nichi no yūgata ni naru to, futatabi genkansaki de hi o taite reikon ga buji ni ano yo e to modoreru yō ni inorimasu. Kore ga "okuribi". Bōtō ni shōkai shita Kyōto no yama no kagaribi wa, shisha no rei o reikai ni okuri todokeru tame no mono desu.
5. Sate, Nihon de wa hachi-gatsu jū-san-nichi zengo wa heijitsu demo ōku no kaisha ya mise nado ga kyūjitsu ni nari, "o-bon yasumi" to yobarete imasu. Gendai Nihon de wa, o-bon wa sosen no rei o matsuru shūkyō gyōji dake de wa naku, kokuminteki na kyūka ya furusato e no kisei no jiki de mo arimasu.

ENGLISH

1. "Obon," The Lantern Festival

CONT'D OVER

2. A sightseeing spot popular with both Japanese and foreign visitors is Kyoto. Everyone, have you heard of the "Gozan no Okuribi," where every year on the sixteenth of August in Kyoto, the Chinese characters 大 ("dai," meaning "big") and 妙 ("myō," meaning "strange") are inscribed in bonfires on the mountains?

3. This is one of the rites of "Obon," or "the Lantern Festival." The name "Obon" is abbreviated from the Buddhist "Urabon-e," or "Feast of Lanterns," and it is an ancient custom in which people welcome the spirits of their ancestors and deceased relatives and hold memorial services for them, which usually takes place during the period from the thirteenth to the sixteenth of August. There are a huge number of Japanese people who, although they would not identify themselves as Buddhist, visit the graves of relatives and express gratitude to their ancestors at Obon.

4. Apparently, Obon customs actually differ from area to area and from religious sect to religious sect, but here I want to introduce some of the customs that I'm familiar with. On the evening of the thirteenth, we light "mukaebi," or "welcoming fires," around the entranceway of the house. These fires are to greet the spirits of the deceased. Then, inside the house, a Buddhist altar and flowers, fruit and vegetables, and such are set out to make welcome those spirits that have returned from the spirit world (commonly called "the other world"). Also, during the Obon period, people also invite a Buddhist monk to their home to chant sutras or go to visit the temple to hear Buddhist sermons. On the evening of the sixteenth, we again light fires around the entranceway of the house and pray for the spirits' safe return to the other world. These are known as the "okuribi," or "sending-off fires." The purpose of the bonfires on the mountains in Kyoto that I mentioned at the beginning is to send off the souls of the dead to the spirit world.

5. Now, in Japan around the thirteenth of August, many companies and shops are closed, even on weekdays; this is called "the Obon holidays." In modern-day Japan, Obon is not only a religious ceremony for praying for the souls of one's ancestors but also a national period for taking time off work or for going back to one's hometown.

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
読経する	どきょうする	dokyō suru	to recite a sutra
焚く	たく	taku	to burn, to kindle

僧侶	そうりょ	sōryō	priest
霊	れい	rei	soul, spirits
霊魂	れいこん	reikon	soul, spirit
法話	ほうわ	hōwa	(Buddhism) a sermon, religious discourse
帰省	きせい	kisei	to go back to one's hometown
風習	ふうしゅう	fūshū	custom

SAMPLE SENTENCES

<p>僧侶に読経してもらおう。 <i>Sōryō ni dokyō shite morau.</i></p> <p>I will have a priest read a sutra.</p>	<p>いつも8時に風呂を焚くことにしている。 <i>Itsumo hachi-ji ni furo o taku koto ni shite iru.</i></p> <p>I always heat the bath at eight.</p>
<p>山道で、僧侶に出会った。 <i>Yamamichi de sōryō ni deatta.</i></p> <p>I met a priest on the mountain path.</p>	<p>この辺りは霊が出ると言われている。 <i>Kono atari wa rei ga deru to iwarete iru.</i></p> <p>It is said that spirits appear around here.</p>
<p>うちの祖父は、霊魂の不滅を信じている。 <i>Uchi no sofū wa reikon no fumetsu o shinjite iru.</i></p> <p>My grandfather believes in the immortality of spirits.</p>	<p>法話を聞きに寺まで行った。 <i>Hōwa o kiki ni tera made itta.</i></p> <p>I went to a temple to listen to a religious discourse.</p>
<p>今年はお盆に帰省しなかった。 <i>Kotoshi wa obon ni kisei shinakatta.</i></p> <p>I didn't go back to my hometown this year.</p>	<p>風習が違う国に住むことは大変だ。 <i>Fūshū ga chigau kuni ni sumu koto wa taihen da.</i></p> <p>To live in a country that has different customs is hard.</p>

GRAMMAR

[Yuichi](#): オーディオブログ第5シーズン第2課 「お盆」

Jessi: こんにちは ジェシーです。

Yuichi: ゆういちです。このシリーズでは、ジェシーさんと一緒に「日本の行事・祝日」を紹介しています。

Jessi: 今回紹介する日本の行事は？

Yuichi: 「お盆」です。Jessi: では、聞いてみてください。

Blog

Yuichi: さて、今回のブログは「お盆」についてでした。少し内容が難しかったかもしれませんね。

Jessi: そうですね。今まで、「お盆イコール夏のお休み」のイメージしかありませんでしたが、由来は仏教の風習なんですね。。

Yuichi: そうなんですよ。実は、僕もあまり仏教の由来に関して勉強したことがなかったので、今回のブログはとても勉強になりました。僕も、やっぱり、「お盆イコール休み」というイメージが先に来ちゃいますね。

Jessi: お盆休みには、祐一さんは何をしますか。。

Yuichi: 僕は、あんまりお盆らしいことはしなくてでですね、家でごろごろとゆっくりしています。

Jessi: それもいいですね。

Yuichi: ジェシーさんは何かお盆にすることはありますか？お盆は、Innovative Language Learningも休みですよ。

Jessi: それが、社長がケチで・・・というのは冗談ですけど、お休みじゃないんです。

Yuichi: はいはい。

Jessi: でも、日本人のスタッフはお盆は休みをとる人が多いですね。

Yuichi: なるほど。じゃジェシーさんは休みは取らずに働いていると？

Jessi: そうなんです。

Yuichi: なるほど、そうなんですか。あ、突然ですけども、「お盆」を使ったことわざがあるんですけども、知ってますか？

Jessi: うーん。。。 覆水 (ふくすい) 盆に返らず？

Yuichi: おっと、なんか難しいのを知っていますね！確かに、この「盆」というのが入っているんですけども、盆の意味が違いますね。この今ジェシーさんが言った「覆水盆に返らず」の盆っていうのはtrayの意味で使われていますので、こぼれた水が、もうもつには戻らない・・・という意味ですね。これ、英語でなんていうんでしたっけ、「覆水盆に返らず」って。

Jessi: It is no use crying over the spilt milk. ですね。

Yuichi: そうですね。この盆は、トレイのお盆ですから、ちょっと違うんですけども、答えはですね、「盆と正月が一緒に来たよう」です。

Jessi: 「ぼん と 正月が いっしょにきた よう？」

Yuichi:はい。「お盆とお正月が一緒に来たように、それくらい忙しい」という意味です。

Jessi:なるほど～。お盆も正月も、準備で忙しいですからね。

Yuichi:はい、その通りです。あと、このことわざは、「うれしいことが重なること」にも使います。

Jessi:お正月もお盆もお休みでうれしい・・・と覚えれば覚えやすいですね。

Yuichi:はい、そうですね。でもジェシーさんの場合はお盆はお休みじゃないので、あんまり嬉しくないかもしれないですね。ブログでは、京都の五山送り火が紹介されていましたが、お盆には他にもイベントがあります。例えば、「盆踊り」って知ってますか？

Jessi:知っています！祭りで踊ってみたこともあります。。

Yuichi:そうですね！地域の人たちが集まって、ステージを作って、そのステージの上と下で円を作りながら、踊るんですよ。僕も実は小さい頃、地域の盆踊りで踊ってました。これは死者の霊を迎えて、供養するのが目的なんですけども、地域によってやっぱ踊りがかなり違うみたいなんですよね。調べてみたら、ジェシーさんの出身地であるカルフォルニアでも、日系人の人たちが盆踊りをするみたいですよ。

Jessi:あ～聞いたことがあります！サンフランシスコのジャパントウンとか、ロサンゼルスのリトル東京とか、日系人が多い町では毎年やっているみたいですね！

Yuichi:ジェシーさんも知っていましたか。盆踊り以外にも、家の中で「精霊棚(しょうりょうだな)」というのを作って、死者の魂を供養することもあるみたいです。

Jessi:精霊棚ですか？

Yuichi:これも、先祖様の霊を迎えるために作る棚なんですけども、死者の名前を書いた木の板を飾ります。で、その前には死者を送り迎えするために乗り物を置くんですよ。さて、ここでクイズです。その「死者を送り迎えする」というのはどんな乗り物でしょうか？

Jessi:うーん。自転車とか車ではないですよ。昔の乗り物なので・・・もしかして馬ですか？

Yuichi:正解です！！さすがジェシーさん、するどいですね。実は行きと帰りの乗り物が違うので、馬ともう一つあるんです。それが、牛です。なので、牛と馬が置いてあるということなんですけども、この作り方がですね、野菜で作るんです。

Jessi:え、野菜で？どんな野菜でつくるんですか？

Yuichi:なすときゅうりに割り箸を足にして作ります。

で、馬と牛、どちらが死者を迎える乗り物で、どちらが死者を送り返す乗り物でしょうか。

Jessi:うーん。これは難しいですね。分らないです。

Yuichi:答えは、馬が迎える乗り物で、牛が送る乗り物です。死者にはこの世に早く来て欲しいですよ。馬は足が速いので、馬を使うということになります。

Jessi:なるほど。で、逆に帰るときは、すぐ帰って欲しくないなので、足が遅い牛に乗ってもらおうということですね。納得です！

Yuichi:こうやって色々なことが考えられているんだなああと知ると面白いですね。それでは、今回のブログはここまでにしましょう。

Jessi:リスナーのみなさんの国には、日本のお盆のように死者を供養する行事はありますか。

Yuichi:ぜひ教えてください。

Jessi:それじゃあ、また。 Yuichi:さようなら。